

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

1. 活動のテーマ

<テーマ>

音 (1歳児)

<テーマの設定理由>

晴れた日には戸外に散歩に出かけることが多く、消防車や救急車、踏切等の音に反応する姿がよく見られた。その為、日常の中での「音」に着目し、様々な素材や季節のものを取り入れ、より音に対しての興味関心を広げていきたいと思った。

2. 活動スケジュール

- 1.ビニール袋で遊んでみよう (5月)
- 2.新聞紙で遊ぼう (6月、10月)
- 3.水遊び (7月、8月)
- 4.落ち葉に触れると！？ (11月、2月)
- 5.雪に触れてみよう (3月)

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

ビニール袋、新聞紙、水、落ち葉、雪 等
様々な素材や季節にあった自然物を取り入れ、興味関心を引き出すようにした。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

1. ビニール袋で遊んでみよう

ビニール袋を様々な遊び方を取り入れ遊ぶ。

2. 新聞紙で遊ぼう

新聞紙を割いたり丸めたりして楽しむ。

3. 水遊び

水に触れ、自分の好きな遊び方を見つける。

4. 落ち葉に触れると！？

落ち葉をちぎったり散らしたりすることを楽しむ。

5. 雪に触れてみよう

雪に触れ、保育者や他児と発見を楽しむ。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

【ビニール袋を使って遊んでみよう】

ビニール袋に子どもたちがちぎった紙を入れてみたり、袋に空気を入れて縛り、周りにビニールテープを貼って弾むようにしてみたりと、様々な遊び方を取り入れた。袋を振ると中に入っている紙がガサガサ鳴ることや膨らませた袋が弾む様子が楽しかったようで、何度も繰り返し遊んでいた。



【新聞紙で遊ぼう】

新聞紙遊びでは、「ビリビリ～」と言いながら割くことを楽しむ姿が多く見られたが、保育者が広げて持った新聞紙を叩いたりパンチしてみたりすると「パンッ」と鳴る破裂音になることに気付き、「もう一回してみる！」と音を鳴らして遊ぶことを楽しむ姿があった。また、割いた新聞紙の中に寝転がると耳元で新聞紙がガサガサ鳴ることに気付き、「くすぐったい」と表現していた。



【水遊び】

水遊びでは、そこに穴が開いた容器に水を入れ、シャワーのように落ちる水に興味を持つ子が多かった。「ザーザー/シャー」等それぞれのイメージの仕方によって落ちる水の音を表現していた。また、少しずつ水を入れ、水滴が1粒ずつ落ちる様子を「ポチョン！」とタイミングに合わせて言うことも楽しんでいた。水が溜まっているタライに手を入れ激しく動かすことで、水が波打つ音や感覚を楽しむ姿もあった。



【落ち葉に触れると！？】

戸外散歩に出た際、公園内に落ちていた枯れ葉に触れてみると、葉が脆くすぐに崩れてしまった。別の葉を探し、葉を引っ張ったりぎゅっと握ったりして葉が崩れる音を「パリパリ！」、葉を割く音を「ビリビリ」と保育者に伝え、何度もその様子を楽しんでいた。1人が遊んでいる様子を見て、段々と周りにいた子も遊びに参加し、パリパリ細かくした葉を集めて花吹雪のように「パラパラ綺麗～」と散らす遊びへと発展していった。



【雪に触れてみよう】

初めて雪に触れてみると、「冷たい！」と触ってみた感触を楽しむ子が多かったが、壁に向かって雪を投げたり地面に雪をこすってみたりする様子がみられるようになり、「ジャリジャリしてるね」「かき氷みたい！」とイメージを膨らませながら遊んでいた。雪が降る様子を「パラパラ～」と表現して興奮する様子もあり、十分に楽しみながら雪に触れることができた。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

- ・はじめは保育者が準備したビニール袋や新聞紙の中から自分の興味があるものを選び、個々で楽しんでいたが、段々と自分の興味関心から発見した音を他児や保育者に知らせ、コミュニケーションや遊びに発展していった。
- ・1つの事象に対して、音の捉え方は人それぞれで、音を言葉で表現する方法は様々だった。
- ・保育者主導にならないよう環境設定や声掛けのタイミング等の見極めが難しかったが、子どもの発見や気づきに共感していったことで、子ども自らの探求心を育めたと思う。

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

1. 活動のテーマ

<テーマ>

音 （2歳児）

<テーマの設定理由>

物をたたいたり、手をたたいたりして音を出すことが多く、それぞれの音を擬音で表現する姿が良く見られた。その為、様々な楽器や手作り楽器を取り入れていき、音への興味関心を広げたり、1つの楽器から沢山の音が出る楽しさを味わってほしいと思った。

2. 活動スケジュール

- 1, 楽器の使い方を知ろう（5月）
- 2, 手作り楽器（太鼓）で遊んでみよう（10月）
- 3, リズムに合わせて楽器演奏しよう（3月）
- 4, 踊りながら演奏してみよう（3月）

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

タンバリン、すず、カスタネット、手作り太鼓（牛乳パック、ガムテープ、割り箸、ビニールテープ）
手作り楽器は常に子どもの手の届く所に置き、いつでも遊べるようにした。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

1, 楽器の使い方を知ろう

楽器の正しい使い方を学び、実際に遊んでみる。

2, 手作り楽器（太鼓）で遊んでみよう

手やバチで太鼓をたたいてみたり音楽に合わせて演奏する。

3, リズムに合わせて楽器演奏しよう

保育者の手本を見ながらリズムに合わせて演奏する。

4, 踊りながら演奏してみよう

音楽に合わせて踊りながら演奏し、身体から出る音も一緒に楽しむ。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

【楽器の使い方を知ろう】

タンバリン、すず、カスタネットの使い方を保育者から学び実際に叩いたり振ったりしてみる。保育者からどんな音がするか聞かれると、すずは「サンタさんの音」タンバリンは「パンパン」カスタネットは「カチカチ」等と擬音やイメージに合わせて伝える姿が見られた。それぞれの楽器の音の違いを他児と会話をしながら楽しんでいた。



【手作り楽器（太鼓）で遊んでみよう】

子どもから「太鼓で遊びたい」と声が上がった為、保育者が手作り太鼓を用意する。「なにこれ？」と手作り太鼓に興味津々な姿があり、保育者が使い方を知らせるとバチや手を使って遊んでいた。手でたたくと大きな音のでる事、バチで叩くと少し小さな音が出ることを発見していた。遊んでいく中で「アンパンマンのうたでたたきたい」等と歌に合わせてたたきたいことを保育者に伝える姿が見られ、音楽に合わせて演奏することが増えた。



【リズムに合わせて楽器演奏しよう】

すずとタンバリンで演奏する。

最初はリズムが上手く掴めず各々好きなように演奏していたが、回数を重ねるうちに保育者の手本を見ながらリズムよく演奏する姿が見られた。保育者に「上手！」と褒められると嬉しそうに笑っていた。演奏後は「上手にできた」「シャンシャン出来たよ」と子ども同士で会話も楽しんでいた。



【踊りながら演奏してみよう】

すずを使って演奏する。

聞き馴染みのある〈パプリカ〉の歌に合わせて踊りながら演奏することを楽しんでいた。最初は保育者が踊りながら演奏する姿を見て真似をするだけだったが、一人の児が足をバタバタさせて音を出している姿を見て、他の児も真似をして身体から出る音も楽しんでいた。「シャンシャン」「ふりふり」等、それぞれ思い思いの擬音を口にしながら演奏していた。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

- ・はじめは保育者が用意したもののみで演奏したり遊んだりする姿が見られたが、楽器に触れていく中で子どもが遊びを展開していき様々な遊び方を行っていた。
- ・手作り楽器を常に子どもの手の届く場所に置いていたことで、より楽器に親しみを持ち演奏の仕方によって出る音の違いを知ることができた。
- ・ただ楽器を演奏するだけでなく、「どんな音がする?」「何の音に聞こえる?」等と声掛けを行ったことで、イメージが湧きやすいよう援助することができた。

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

1. 活動のテーマ

<テーマ>

音 (5歳児)

<テーマの設定理由>

普段の生活の中でリズム感のある手遊びを楽しむ姿が見られたことから、手だけでなく様々な楽器に触れリズムをとることを楽しみ、「音」に関して興味・関心を深めていきたいと感じた。

2. 活動スケジュール

- 1.様々な楽器があることを知り、触れてみよう（5月）
- 2.季節の歌に合わせて楽器を演奏してみよう（6月）
- 3.リズムに合わせて友だちの前で発表してみよう（7月）
- 4.地域高齢者施設交流で演奏を発表してみよう（10月）

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

タンバリン・鈴・カスタネット・ギター

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

- 1.様々な楽器があることを知り、触れてみよう
いくつかの楽器を紹介し、実際に触れ、音を鳴らしてみる。音の違いに気付く。
- 2.季節の歌に合わせて楽器を演奏してみよう
保育者がピアノで季節の歌を弾き、歌に合わせて楽器の音を鳴らすことを楽しむ。
- 3.リズムに合わせて演奏し、友だちの前で発表してみよう
楽器ごとにグループに分かれてリズムに合わせて演奏してみる。友だちの演奏を聞く。
- 4.地域高齢者施設交流で演奏を発表してみよう
高齢者の方に演奏を聞いてもらい、人前で発表することを経験する。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

【様々な楽器があることを知り、触れてみよう】

タンバリン・鈴・カスタネット・ギターなどの楽器を紹介し、どうやったら音が鳴るかを考えたり、思い思いに楽器に触れ、音を鳴らしてみることを楽しんだ。

「叩く場所によって音が違う!」「なんかきれいな音がするね」など音を感じ感想や気付きを友だちや保育者と共有することを楽しんでいた。様々な楽器に触れてみる中で、「この楽器好き!」とお気に入りの楽器を見つける姿が見られた。



【季節の歌に合わせて楽器を演奏してみよう】

あめふりくまの子・かたつむり・時計の歌・どんぐりころころなど日常の中で慣れ親しんで歌っている季節の歌に合わせて楽器を鳴らしてみた。

自分が演奏してみたい楽器を選び、音を鳴らしてみると「なんかいい感じだね」「ほんとうにかたつむりが遊びにきそうな音だね」など感じたことを言葉にして表現していた。

友だちが音を鳴らしている姿を見て、「ぼくもその楽器やってみたい!」と言い、楽器を交換したりしながら楽器への興味を深めていた。



【リズムに合わせて友だちの前で発表してみよう】

楽器ごとに2人～4人のグループを作った。歌に合わせたリズムを保育者が伝え、最初はリズムがうまく取れず音がバラバラだったが、ゆっくりと繰り返し行うことで徐々に慣れていった。何回か合わせて演奏していくと、音が揃うようになり、揃った状態で最後まで演奏を行うことができると「おお～！できた！」と喜び達成感を感じている表情が見られた。友だちが演奏している姿を真剣な眼差しで見つめる子もいれば、体を揺らしながら音を感じている子など聞く姿が様々であった。演奏後には「すごいじゃん！」「きれいだった」など感じたことを演奏していた友だちに伝えていた。

リズムや音の音色を感じ、それぞれ個々の思いから様々な発見や興味に繋がってきた。



【地域高齢者施設交流で演奏を発表してみよう】

月1で交流をしている高齢者施設交流の場で、楽器演奏を実施した。いつもとは違う雰囲気緊張する姿が見られたが、最後まで堂々と発表していた。おじいちゃん、おばあちゃんから「上手ね～」と声をかけてもらい褒められると照れくさそうにしていた。

「次回は、たいこやギターも入れてみる？」「違う楽器も入れてみる？」「僕たちで楽器を作ってみる？」など様々な会話が弾む姿が見られた。

交流後も「また、おばあちゃんたちに聞いてもらいたい」と次回の交流や楽器演奏に期待を持つような声が聞こえてきた。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

- ・鳴らしてみたい楽器を子ども自身で選んだことで、「音」に興味を持つきっかけとなり、様々な楽器に触れたり、音の違いに気付いたり関心が広がっているように感じた。
- ・友だちの前での発表では、同じ楽器の音を聞きながらリズムを合わせようとしたり、聞いている側も感想を伝える姿が見られ、活動を通して友だち同士での伝え合いや関わりが深まったように感じた。
- ・園内だけでなく、地域の方に見てもらう機会に繋がったことで「もう一回演奏したい！」という意欲や期待を引き出すことができ良かった。